

車両 アメリカにおけるシュタッドラー社の事業拡大

原題：Building a permanent presence
誌名：RGI：Railway Gazette International Vol.174 No.8 (2018-8) pp.36-37

スイスのシュタッドラー社は近年、北米でも存在感を増しています。アメリカにおける最初の受注は2002年のニュージャージートランジット向けのディーゼルライトレール20編成でした。その後、テキサス州オースチンに同様の車両6編成を納入しました。さらに2014年までに気動車の受注を2件得ており、これらは欧州で製造しました。その後、ユタ州の運輸公社の車両基地の建物の一部を借りて、TEXRail向けの気動車を製造しています。また、ソルトレイクシティ空港の西側に2.3haの用地を確保しており、2019年に新しい工場が完成する予定です。2016年にはカルトレン向けの2階建て電車16編成を受注し、今後、アムトラックから気動車を受注する可能性もあります。



出典:Railway Gazette International

シュタッドラー社が16編成を2020年に納入する予定のCaltrain電化プロジェクト向けの2階建て電車

輸送 最新の貨物操車場

原題：Die modernisierte Zugbildungsanlage Halle (Saale)
誌名：EI：Eisenbahningenieur Vol.69 No.7 (2018-7) pp.24-26

ドイツの伝統ある貨物輸送の基地であるハレは、新時代の近代的な操車場として2018年7月に開業しました。ドイツの直近の貨物ヤードの開業は約25年前のミュンヘン北貨物駅ですが、時代が経過したため当時の知識はほとんどありません。ハレ操車場は今日の技術の上に作られ、DB Cargo社にとってチャンスであり、挑戦であると考えられています。



出典:Eisenbahningenieur

2017年12月の試運転におけるハンプ上の最初の車両

経営 インド国鉄の営業推移と今後の方向性

原題：Financial crunch demands a change of course
誌名：RGI：Railway Gazette International Vol.174 No.7 (2018-7) pp.24-28

IR (インド国鉄) の財政と営業状態の悪化は政府がめざす鉄道の輸送シェアアップの障害となっています。ここ20年来、IRは成長の鈍化に加え、収入の伸びを上回る経費の増大により経営は厳しい状態にあります。インド政府は2018-19予算の一環として、IRネットワークの近代化および拡張に関する投資計画を公表しました。電化、複線化、改軌および車両調達などの設備投資計画の資金確保のため、国内調達のほか、世界銀行、アジア開発銀行およびJICAなどの外部資金を予定しています。投資は旅客重点で貨物への投資は滞りがちです。



出典:Railway Gazette International

新年度予算で1700両の車両調達を予定

環境 騒音防止効果を体験可能にする

原題：Wirkung von geplanten Lärmschutzmaßnahmen erlebbar machen
誌名：EI：Eisenbahningenieur Vol.69 No.6 (2018-6) pp.28-31

オストホルシュタイン郡のパート・シュヴァルトウで、フラウンホーファー研究所によって騒音防止対策のシミュレーションが実施されました。特殊なマイクロホンとカメラシステムにより、3次元の音場とシームレスで高解像度なパノラマビデオが同時に記録されました。現場を通過する列車の記録に基づき、計画されている騒音防止対策と将来運行される貨物列車の発生騒音が視覚的にシミュレートされました。可搬型のラップトップ・シミュレーションは近隣住民との良好な話し合いを可能にします。



出典:Eisenbahningenieur

フラウンホーファー研究所



WRT (海外鉄道技術情報) は海外主要鉄道誌の記事抄訳を含め、海外の最新の鉄道技術情報をタイムリーに紹介する季刊誌です。ここに紹介した記事はその一部です。
⇒新刊案内、バックナンバーは総研HP (www.rtri.or.jp) をご覧ください。
⇒問合せ (研友社) TEL: 042-572-7157 HP: www.kenf.jp